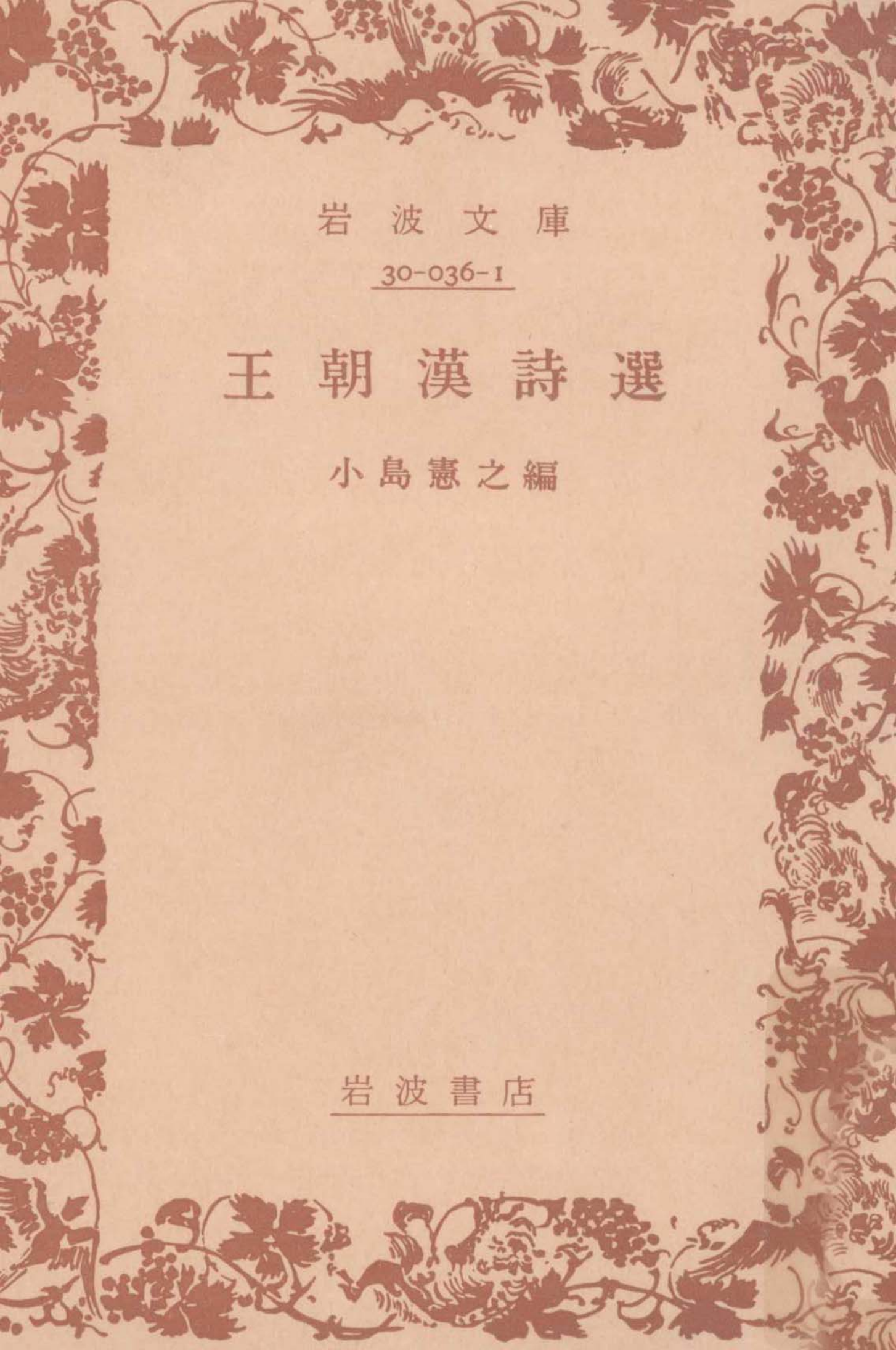




岩波文庫

30-036-1

王朝漢詩選

小島憲之編

岩波書店

王朝漢詩選

1987年7月16日 第1刷発行 ©

定価 700 円

編 者 こ じま のり ゆき
 小 島 憲 之

発 行 者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5

発 行 所 巖 波 書 店

電話 03-265-4111

振替 東京 6-26240

印刷・三秀舎 製本・桂川製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします Printed in Japan
ISBN4-00-300361-6

岩 波 文 庫

30-036-1

王 朝 漢 詩 選

小 島 憲 之 編

岩 波 書 店

凡 例

一 本書は、日本漢詩の中から、王朝すなわち平安時代を中心に、それ以前（奈良時代）を含め、七世紀から一二世紀に及ぶ時代の、数にして三〇〇〇余首より一七〇首を選んだものである。撰択の基準その他、くわしくは解説を参照されたい。

一 テキストはなるべく『群書類従』本を使用した。明らかに誤字とおもわれるものは、校注者の責任において改め、その旨を注記したが、簡単なものは一々その説明を省いた。

一 作品は、ほぼ年代順・作家別に配列しようと努め、一連番号を振った。

一 訓読文は、現在通行している訓み方に従うことを原則とした。ただし、清濁に限っては、なるべく王朝時代に発音されたと推定されるものに従った。これは清濁が長い年月にわたって用いられてきたことによる。

一 訓読文の一字あきは、校注者の読みの呼吸によったもので、必ずしも一定の規則はない。

一 選んだ詩に関連し、しかも佳作とおもわれる詩は、もとの詩の最後に（参考）として掲げた。この場合は訓読文のみとした。

一 訓読文は旧かなづかいとした。

一 詩の理解の一助となるよう注解を付し、見出し語をへでかこった。その際、次のように処理した。

〈山光〉「山光」についてのみの説明。

〈山光……〉「山光……」を含む一句についての説明。

〈山光……江氣〉「山光……、江氣……」の二句を通じて説明する場合。

注解の中で「白詩」と略記したのは、白居易（白樂天）の詩をさし、本文は便宜上『白香山詩集』（白香山詩集・白香山詩後集）による。

一 参考詩一覧、最も簡単な詩人小伝、および作品の出典を、巻末に付した。

目 次

凡例

一 王朝以前の漢詩

- 1 述懷（述懷）……………大友皇子 三
 2 遊獵（遊獵）……………大津皇子 四
 3 臨終（臨終）……………大津皇子 三
 4 山齋（山齋）……………中臣大島 七
 5 述懷（述懷）……………文武天皇 元
 6 望雪（雪を望む）……………紀古麻呂 三
 7 七夕（七夕）……………山田三方 三
 8 於寶宅宴新羅客 賦得（寶宅に
 して新羅の客を宴す 賦して「烟」

の字を得たり）……………長屋王 三

9 秋日於長王宅宴新羅客 賦得（秋の日に長王が宅にして新羅の客を宴す 賦して「稀」の字を得たり）……………刀利宣令 三

10 在常陸贈倭判官留在京（常陸に在るときに、倭判官が留まりて京に在すに贈る）……………藤原宇合 四

11 遊吉野川（吉野川に遊ぶ）……………藤原宇合 四

- 12 過神納言墟（おほみわのなごんきよ） 神納言が墟に過る）……………藤原萬里 四

- 13 和藤江守詠裨叡山先考之舊

禪處柳樹之作（ふぢはらのあふみのかみ） 藤江守が

「裨叡山（ひえのやま）の先考（せんかう）が旧禪處（きうぜんしよ）の柳樹（りうじゆ）を詠む作（よさく）」に和す）……………麻田陽春 五

- 14 飄寓南荒贈在京故友（なんくわう）（南荒

に飄寓（へうぐう）し、京（みやこ）に在（いま）す故友（こいう）に贈る）……………石上乙麻呂 五

- 15 秋夜閨情（しうやけいじやう）……………石上乙麻呂 五

- 16 晩春三日遊覽（ばんしゆんみかいうらん）……………大伴池主 六

す）……………大伴池主 六

- 17 銜命使本國（めいをへみてもとくに）……………阿倍仲麻呂 六

使す）……………阿倍仲麻呂 六

二 王朝の漢詩

〔前期〕

- 18 賦櫻花（あうくわ）（櫻花を賦す）……………平城天皇 七

- 19 神泉苑花宴賦落花篇（しんせんえん）（神泉苑の

花宴（くわえん）にして、「落花篇（もくくわへん）」を賦す）……………嵯峨天皇 七

- 20 春日遊獵日暮宿江頭亭子……………嵯峨天皇 九

（春日遊獵（しゆんじついうれふ）し、日暮江頭（にちぼかうとう）の亭子（ていし）に宿る）……………嵯峨天皇 九

に宿る）……………嵯峨天皇 九

21 和左金吾將軍藤緒嗣交野離

……嵯峨天皇 八

宮感舊作 (左金吾將軍藤緒

……内史貞主

嗣が「交野離宮に過りて旧を感

27 和內史貞主秋月歌 (内史貞主
が「秋月歌」に和す) ……嵯峨天皇 八

ふ作」に和す) ……嵯峨天皇 七

28 神泉苑九日落葉篇 (神泉苑九
日の落葉篇) ……嵯峨天皇 六

22 和左衛督朝嘉通秋夜寓直周

廬聽早雁之作 (左衛督朝?)

29 鞆韃篇 (鞆韃篇) ……嵯峨天皇 二三

嘉通が「秋夜周廬に寓直し、早

30 清涼殿畫壁山水歌 (清涼殿画
壁の山水歌) ……嵯峨天皇 二七

雁を聴く作」に和す) ……嵯峨天皇 五

23 江頭春曉 (江頭の春曉) ……嵯峨天皇 三

24 江邊草 (江辺の草) ……嵯峨天皇 六

25 夏日臨泛大湖 (夏日大湖に臨

泛す) ……嵯峨天皇 六

26 賦得隴頭秋月明 (賦して「隴

頭秋月明らかなり」を得たり)

32 春日侍嵯峨山院探得廻字應

製 (春日嵯峨山院に侍す、探

……淳和天皇 二三

り、左神策衛藤將軍に呈す)

將軍 (江亭の曉興) に和し奉

31 奉和江亭曉興呈左神策衛藤

りて「廻」の字を得たり、応製

………淳和天皇 二六

33 饒美州掾藤吉野得花字（美

州掾藤吉野を饒す、「花」の字を得たり）………

淳和天皇 二六

34 和菅祭酒秋夜途中聞笙之什

（菅祭酒が「秋夜途中にして笙を聞く什」に和す）………

藤原冬嗣 二〇

35 奉和翫春雪（「春雪を翫ぶ」

に和し奉る）………

藤原冬嗣 二三

36 早舟發（早舟發す）………

仲雄王 二四

37 奉和春日江亭閑望（「春日

江亭の閑望」に和し奉る）………

仲雄王 二五

38 尋良將軍華山庄將軍失期不

在（良將軍が華山の庄を尋ぬ

るに、將軍期を失ひて在さず）

………仲雄王 二六

39 處肩詞（處肩の詞）………

仲雄王 二三

40 留別故人（故人に留別す）………

賀陽豐年 二三

41 別諸友入唐（諸友が入唐する

を別る）………

賀陽豐年 二五

42 傷野將軍（野將軍を傷む）………

賀陽豐年 二六

43 奉和觀佳人踢歌御製（佳人

の踢歌を觀る）御製に和し奉る）

………小野岑守 二六

44 奉和聖製春女怨（聖製「春女

怨」に和し奉る）………

小野岑守 二四

45 奉和傷右近衛大將軍坂宿禰

御製「右近衛大將軍 坂

宿禰を傷む」御製に和し奉る

……………小野岑守 一四

46 遠使邊城（遠く辺城に使う）

……………小野岑守 一五

47 留別文友（文友に留別す）……………小野岑守 一五

48 歸休獨臥寄高雄寺空上人

（歸休獨臥し、高雄寺空上人に

寄す）……………小野岑守 一五

49 五夜月（五夜の月）……………良岑安世 一六

50 暇日閑居（暇日閑居）……………良岑安世 一六

51 冬日汴州上源驛逢雪（冬の日

に汴州上源驛にして雪に逢ふ）

……………菅原清公 一六

52 奉和侍中翁主挽歌詞二首

（侍中翁主挽歌詞）に和し奉る、

二首）……………菅原清公 一六

53 賦得絡緯無機織應製（賦して

「絡緯機織無し」を得たり、応

製）……………菅原清公 一七

54 奉和御製江上落花詞（御製

「江上落花詞」に和し奉る）

……………菅原清公 一七

55 早春田園（早春の田園）……………淡海福良満 一七

56 被譴別豊後藤太守（譴を被り、

豊後藤太守を別る）……………淡海福良満 一八

57 夕次播州高砂湊（夕に播州高

砂湊に次る）……………淡海福良満 一八

- 58 涉信濃坂 (信濃坂を渉る) 坂上今継 一四
- 59 和渤海大使見寄之作 (渤海大使「寄せられし作」に和す) 坂上今継 一六
- 60 和菅祭酒賦朱雀衰柳作 (菅祭酒が「朱雀の衰柳を賦する作」に和す) 多治比清貞 一八
- 61 伏枕吟 (伏枕吟) 桑原宮作 一九
- 62 奉和聽擣衣 (「擣衣を聴く」に和し奉る) 桑原腹赤 一九五
- 63 奉和傷野女侍中 (「野女侍中を傷む」に和し奉る) 桑原腹赤 一九七
- 64 觀鬪百草簡明執 (百草を鬪はすを觀て、明執に簡す) 滋野貞主 二〇〇
- 65 奉和觀落葉 (「落葉を觀る」に和し奉る) 滋野貞主 二〇五
- 66 臨春風效沈約體應製 (春風に臨む、沈約が体に效ふ、應製) 滋野貞主 二〇六
- 67 和進士貞主初春過菅祭酒舊宅悵然傷懷之作 (進士貞主が「初春菅祭酒が旧宅に過りて、悵然傷懷する作」に和す) 巨勢識人 二〇九
- 68 奉和春日江亭閑望 (「春日江亭の閑望」に和し奉る) 巨勢識人 二二
- 69 秋日別友人 (秋日友人を別る) 巨勢識人 二四

70 奉和春閨怨（「春閨の怨」に和

し奉る）……………巨勢識人 二五

71 和伴姫秋夜閨情（伴姫が「秋

夜の閨情」に和す）……………巨勢識人 二三

72 和滋内史奉使遠行觀野燒之

作（滋内史が「使を奉じて遠

行し野燒を觀る作」に和す）……………巨勢識人 二四

73 奉和春閨怨（「春閨の怨」に和

し奉る）……………朝野鹿取 三六

74 題光上人山院（光上人が山

院に題す）……………錦部彦公 二四

75 晚秋述懷（晚秋述懷）……………姫大伴氏 二六

76 冷然院各賦一物得水中影應

製（冷然院にして各一物を賦

し、「水中の影」を得たり、応
製）……………桑原 広田麻呂 二七

77 在唐觀昶法和尙小山（唐に在

りて昶法和尙が小山を觀る）……………釈空海 二四〇

78 後夜聞佛法僧鳥（後夜にして

仏法僧鳥を聞く）……………釈空海 二四二

79 九想詩（白骨連相）……………釈空海 二四二

80 奉和除夜（「除夜」に和し奉る）

……………公主有智子 二四五

81 春日山莊探得塘光行蒼

（春日の山莊、探りて「塘・光・

行・蒼」を得たり）……………公主有智子 二四八

82 閑庭雨雪（閑庭の雨雪）……………仁明天皇 二五〇

83 和良將軍題瀑布下蘭若簡清

- 大夫之作（良將軍が「瀑布」の蘭若に題し、清大夫に簡する作」に和す）……………源弘二五
- 84 秋雲篇示同舍郎（秋雲篇、同舍の郎に示す）……………小野篁二五四
- 85 賦得深山寺應太上天皇制（賦して「深山寺」を得たり、太上天皇の制に応ず）……………惟良春道二五八
- 86 奉和擣衣引（「擣衣引」に和し奉る）……………惟氏二六〇
- 87 奉試賦得王昭君（六韻、奉試。賦して「王昭君」を得たり六韻を限りと為す）……………小野末嗣二六五
- 88 奉試詠塵（六韻、奉試。塵を詠爲限）……………
- 90 和坂領客對月思鄉見贈之作（坂領客が「月」に對ひて郷を思ふ」といふ贈られし作」に和す）……………王孝廉二七六
- 89 夜聽擣衣（夜擣衣を聴く）……………楊泰師二七二
- 91 秋夜臥病（秋夜病に臥す）……………都良香二七九
- 92 花宴應常陸王教（花宴、常陸王が教に應ず）……………島田忠臣二八一
- 93 惜櫻花（櫻花を惜しむ）……………島田忠臣二八三
- 94 三月晦日送春感題（三月晦日春を送るに、感を題す）……………島田忠臣二八五
- 〔中期〕

- 95 病後閑座偶吟所懷 (病後閑座)
し、偶に所懷を吟ず) ……島田忠臣 二六七
- 96 七月一日 (七月一日) ……島田忠臣 二六九
- 97 早秋 (早秋) ……島田忠臣 二七〇
- 98 秋日感懷 (秋日の感懷) ……島田忠臣 二七二
- 99 賦得秋織 (賦して「秋織」を得たり) ……島田忠臣 二七三
- 100 見蜘蛛作網 (蜘蛛の網を作るを見る) ……島田忠臣 二七五
- 101 照鏡 (鏡に照らす) ……島田忠臣 二七七
- 102 元慶七年春大相賜文馬有感
自題 于時赴任美濃教令騎去 (元慶七年の春に、大相文馬を賜ふ、感有りて自ら題す 時に美濃に赴任す、
- 103 花前有感 (花前感有り) ……島田忠臣 三〇〇
- 104 見叩頭蟲自述寄宋先生 (叩頭虫を見て自述し、宋先生に寄す) ……島田忠臣 三〇二
- 105 八月十五夜月前話舊各分一字 探得 (八月十五夜に、月の前に旧を語る、各一字を分つ探りて「心」を得たり) ……菅原道真 三〇四
- 106 雪中早衙 (雪中の早衙) ……菅原道真 三〇六
- 107 海上月夜 于時祈神到越州 (海上の月夜 時に神に祈らんとして越州に到る) ……菅原道真 三〇八
- 108 春日過丞相家門 (春日丞相

- が家門に過る) ……………菅原道真 三〇
- 109 夏夜於鴻臚館餞北客歸鄉
(夏の夜に鴻臚館にして、北客
の歸郷するに餞す) ……………菅原道真 三一
- 110 夢阿滿 (阿滿を夢みる) ……………菅原道真 三四
- 111 中途送春 (中途にして春を送
る) ……………菅原道真 三〇
- 112 寒早 (寒きこと早し) ……………菅原道真 三三
- 113 春盡 (春尽く) ……………菅原道真 三五
- 114 到河陽驛有感而泣 (河陽の駅
に到り、感有りて泣く) ……………菅原道真 三七
- 115 冬夜閑居話舊以霜爲韻
(冬の夜に閑居して旧を語る、
「霜」を以て韻と爲す) ……………菅原道真 三六
- 116 四年三月二十六日作 (四年三
月二十六日の作) ……………菅原道真 三〇
- 117 言子 (子を言ふ) ……………菅原道真 三三
- 118 獨吟 (独吟) ……………菅原道真 三四
- 119 野村火 (野村の火) ……………菅原道真 三五
- 120 殘燈 (殘燈) ……………菅原道真 三六
- 121 七月七日代牛女惜曉更各分
一字應製 (探得 (七月七日に牛女
に代りて曉更を惜しむ、各
一字を分つ、應製 探りて「程」
の字を得たり) ……………菅原道真 三七
- 122 重陽後朝同賦秋雁櫓聲來應
製 (重陽の後朝に、同じく「秋
雁櫓聲來る」といふことを賦す、
應製) ……………菅原道真 三九